

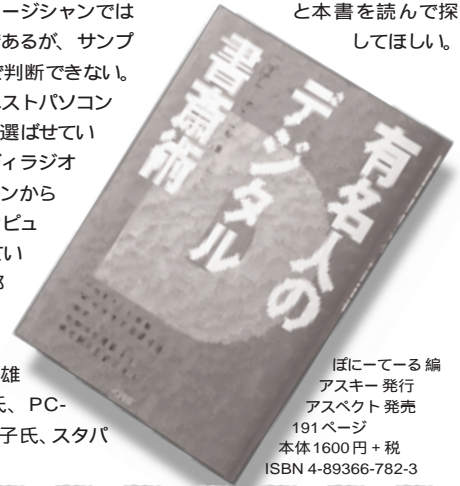
著名人のインターネット環境が分かる!

『著名人のデジタル書齋術』

松本隆氏、黒川紀章氏、坂本龍一氏、佐野元春氏、吉村伸氏ら各界の著名人31人のインターネット環境を紹介してくれるこの本は、ちょっとした好奇心を満たしてくれる。どんなふうに使っているのか、何がきっかけで始めたか、お気に入りのサイトはどこか、WWWブラウザのブックマークを見せてくださいと、31人の仕事部屋に上がり込んだ気分になる。クールな使い方を真似るのもよし、おすすめサイトに出かけるのもよし、この手の本の中では使える情報が多くて楽しめる。たとえば、写真も多く掲載されているので、どんなマシンを使っているの

かを探してみると、マックユーザー13、DOS/V系ユーザー15、不明3、ザウルス併用1となった。編集上の意図があるのか分からないが、マックとDOS/Vで均衡がとれている。ミュージシャンではややマック有利であるが、サンプル数が少ないので判断できない。この本を読んでベストパソコンユーザーを独断で選ばせていただくと、タンディラジオシャックのパソコンから使いはじめ、コンピュータサーブを利用していたという木村太郎氏を挙げたい。次点はコモドルの野口悠紀雄氏、岡田斗司夫氏、PC-8001の高木美也子氏、スタバ

斉藤氏の4名。ベストインターネットユーザーは、アダルト系のサイトもブックマークから削除することなく公開してくれた2人に決定。その人の名は...、じっくりと本書を読んで探してほしい。



編 著 一 へ ば
アスキー発行
アスペクト発売
191ページ
本体1600円+税
ISBN 4-89366-782-3

あの人のインターネット活用法

菊地宏明 Hiroaki Kikuchi

サイバーカルチャーとインターネットの関係

『エスケープ・ヴェロシティ』

世紀末のサイバーカルチャーが達した脱出速度(エスケープ・ヴェロシティ)とは何なのか? コンピュータ、ミュージック、演劇、パフォーマンスアート、性、体やボディアートをサイバーカルチャーの視点から解説した、とても刺激的な本である。コンピュータの章では、インターネットを活躍の場として発展した独自のカルチャーを取り上げているが、ビル・ゲイツやステューブ・ジョブズ±10歳程度の世代が中心になっていることに気づく。60年代のフラワーチルドレン世代から、70年代をティーンエイジャーとして過ごした層がインターネットカル

チャーを引っ張っているのだから、40代前半から20代後半の人は、サイバーカルチャーに共鳴しやすいのではないだろうか。かく言う私も、恥ずかしながら見事にすっぱりハマってしまった。レコードを聞き始めた頃にはシンセサイザーが当然のようにあって、テクノミュージックやサイバーパンクやSFの洗礼を受け、学生の頃にはコンピュータ端末の前でファーストフード。そしてインターネットが目の前で広がっていた。育ったカルチャーをあかさまに見すかされたと感じる人は、日米を問わずかなり異なるに違いない。インターネットを育てた世代を理解するにもよい本である。



著 者 マーク・デリー
訳 者 松藤留美子
角川書店発行
389ページ

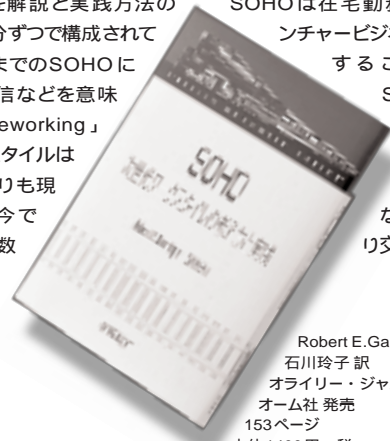
インターネットマガジン/株式会社インプレスR&D
ISBN 4-04-791272-7

日本社会を考慮したSOHO入門書

『SOHO次世代ワークスタイルの考え方と実践』

オライリーコンピュータシリーズの翻訳本なので、つまり米国版のSOHO入門書と思ったが、本書は日本向けに書かれている。その内容は日本の企業形態を考慮に入れ、米国でのSOHOの現状などをちりばめながら書かれ、「次世代ワークスタイルの考え方と実践」とサブタイトルにあるように、SOHOT(Small Office, Home Office & Teleworking)のワークスタイルを解説と実践方法の提案が半分ずつで構成されている。今までのSOHOに移動体通信などを意味する「Teleworking」を含めたスタイルはSOHOよりも現実的だ。今では、日に数人はPDA

やサブノートを電車内で使う光景を目にし、多くのSOHO実践者が、何らかの携帯情報端末を持っている。SOHOTの実践のための提案も、米国での成功例を取り上げたりしているので、インターネットで世界をターゲットにしたビジネスを行うには参考となる。著者の本業はマーケティングであり、マーケティング戦略の章にはSOHOにも役立つヒントが豊富にある。国内の状況だけで語られるSOHO入門書とは一味違った魅力がある本。ここでのSOHOは在宅勤務ではなく、ベンチャービジネスとして独立することを指し、SOHOのおもしろさと、SOHOを通じて起業家になる厳しさが入り交じっている。



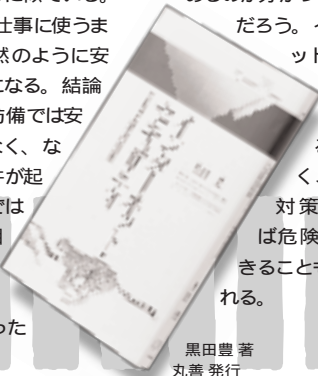
著 者 Robert E. Garrity
訳 者 石川玲子
オライリー・ジャパン発行
オーム社発売
153ページ
本体1400円+税
ISBN 4-900900-50-8

危険性の認識から回避までを解説

『インターネット・セキュリティ』

個人でプロバイダー契約をして、電子メールやWWWブラウザを楽しんでいるときには心配しなかったインターネットの安全性について、考えなければならぬ時がいつか来るものだ。それはまるで生命保険のようで、社会に出たばかりの頃は気にも留めないが、30歳をすぎた頃や結婚を考えた頃に、ふと「このままではいかん」と思うのに似ている。インターネットも仕事に使うまでになると、当然のように安全なのかと心配になる。結論から言えば、無防備では安全であるはずはなく、なにかの事故や事件が起こっても不思議ではないというのが相場である。電子メールの利用を開始して少し経った

企業で、差出人不明の怪文書が飛び交うとか、特定のパソコンのWWWブラウザでは本来のホームページ以外のページにアクセスするように細工されていた例などは私でも知っている。しかし、ではどうすればよいかとあわてふためくことはない。本書は、そんな人の役に立つインターネットセキュリティの入門書で、ビギナー向けに広く浅い内容だが、多くの項目を網羅しているのだから、いろいろなところに危険があるのが分かってもらえるだろう。インターネットが単に危ないという警告するだけでなく、適切に対策を講じれば危険を回避できることも教えてくれる。



黒田豊著
丸善発行
182ページ
本体640円＋税
ISBN 4-621-05239-X

読者プレゼント

前川 徹氏のサイン本を4名様にプレゼントします。ご希望の方は、官製はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を明記のうえ、〒102 東京都千代田区三番町20 (株)インプレス インターネットマガジン編集部「書評サイン本プレゼント」係までお申し込みください。なお、当選者の発表は商品の発送を持って代えさせていただきます。締め切りは10月25日です。



前川徹著
スパイク発行
386ページ
本体1900円＋税
ISBN 4-89621-178-2

ニューヨーク駐在員の生レポート

『サイバースペースとアメリカ情報産業』

インターネットの情報は、その多くが米国からやってくる。しかし、日本で紹介されている内容がそのまま米国での現状とは限らず、中にはかなり食い違っている情報もある。本書は社団法人日本電子工業振興協会の『電子工業月報』に掲載された「ニューヨーク駐在員報告」からの抜粋を加筆修正したもので、現場からのレポートの生々しさには新鮮な驚きを感じさせる。本書は8つの章からなり、インターネットプロバイダー、利用者、イントラネット、エクストラネット、セキュリティ、教育、エレクトロニック・コマース、CALS、ブラウザ、ネットワークコンピュータ/ネットPCに関する項目を取り上げる。たとえば、あまたあるインターネットプロバイダーは実際に利益を上げているのか。日本でも急増したプロバイダーがそのまま生き延びられるのか心配されるところだが、米国ではどうなのだろうか。また、日本ではモデム速度が、28.8Kbps、33.6Kbpsと高速化する間にISDNの普及が進み、64Kbps、128Kbpsへと移りつつあるが、なぜISDNが盛り上がっているこの時期に56KbpsというISDNにも及ばない速度のモデムが現れたのか。ウィンドウズNTを表すWNTの綴りをアルファベット順に1つズラすとVMSとなる。これはDEC社のオペレーティングシステムであるVMSと何か関係があるのか。これらの答えは、すべてこの本にある。

る項目を取り上げる。たとえば、あまたあるインターネットプロバイダーは実際に利益を上げているのか。日本でも急増したプロバイダーがそのまま生き延びられるのか心配されるところだが、米国ではどうなのだろうか。また、日本ではモデム速度が、28.8Kbps、33.6Kbpsと高速化する間にISDNの普及が進み、64Kbps、128Kbpsへと移りつつあるが、なぜISDNが盛り上がっているこの時期に56KbpsというISDNにも及ばない速度のモデムが現れたのか。ウィンドウズNTを表すWNTの綴りをアルファベット順に1つズラすとVMSとなる。これはDEC社のオペレーティングシステムであるVMSと何か関係があるのか。これらの答えは、すべてこの本にある。

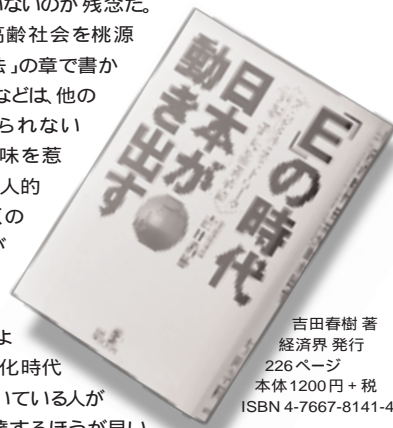
インターネット時代の未来予想図

『「E」の時代 日本が動き出す』

タイトル(E=エレクトロン)からして、最近のインターネットを中心としたキーワードをちりばめた未来予測本に思えるが、やはり内容もそのものズバリであった。出版社、著者ともに経済の専門家ということなので、その内容に期待したが、どうも物足りなさを感じる。確かに、ネットワークが産業界や経済界を変革していくインフラとなりえることは分かるが、ここで述べられているのはただそれだけで、実際に知りたいことに明確な答えを見つけないことができない

い。唐突に出てくる電子マネーやSOHOといったキーワードが分からないと、本書の内容を理解することは困難で、それを分かりにくい外来語表記と大きな図でごまかしている。ベンチャービジネスで意味が通るところをヴェンチャー・ビジネスと表記するなんて、あえて分かりにくくしているのしか思えない。さらに、そこに説明なしには理解できそうにない、プレゼンテーション用のコンセプト図のような図を多く掲載しているために、偉い人を招いた中身の無い講演のように感じられる。何よりも、タイトルにある本書の核心たるべき「日本が「E」の時代に生きる

ために必要なポイント』に深く言及していないのが残念だ。ただ、「高齢社会を桃源郷にする法」の章で書かれた内容などは、他の本では見られない内容で興味を惹かれた。個人的には、多くの高齢者が情報化時代に対応するよりも、情報化時代を生き抜いている人が高齢者に達するほうが早いような気もするのだが..。



吉田春樹著
経済界発行
226ページ
本体1200円＋税
ISBN 4-7667-8141-4



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp